

髮筋のことを古言のまゝにかんざしと言ても紛れざりし也、今はあの娘のかんざしはちぢれ
てあると言ば、べつかふのまへざしの焦てあるかと思ふめり、是簪といふ物いできて、其名も廣
くなりしゆる也けり、

黒髮

〔増補下學集〕上ニクカミ黒髮鬢上

〔萬葉集〕二相聞磐姫皇后思天皇〇仁御作歌四首〇中
アリフ、モキミ、ヲハマ、タシ、ウチナシ、クワ、クワ、カ、ニ、シ、モ、ノ、オ、ク、マ、デ、ニ、
在管裳、君乎者將待、打靡吾黒髮爾、霜乃置萬代日、

白髮

〔新撰字鏡〕髟髮方小反、上、白髮

〔伊呂波字類抄〕志白髮シラガ 鬢同

〔倭訓栞〕前編十一「しらが 新撰字鏡に鬢をよめり、白髮の略也、俗に辛苦する事を、髮の白くなる

といふは、漢の光武の語に、每一發兵、不覺頭髮爲白と見えたり、

〔璫囊抄〕三シラガフキナルナント云ハ何事ゾ

皆白髮ナルニハ非ズ、黒白斑ラニ交リタル義也、日本紀ニ曰、白髮斑雜ト書テ、シラガフウキト讀
ゾ、フキト云ハ誤也、常ニ斑ノ字ヲ斑ニ誤也、中ニ文ヲ書タルハマダラ也、斑ハツクトヨム也、次テ
ノ義也、

〔和漢三才圖會〕十二髮音發

髮之白雖有遲早老少皆不係壽之修短、由祖傳及隨事感應而已、如晉王彪之年三十餘鬚髮盡白、後
至七十餘歲卒之類有之、〇中

按〇中 壯歲白髮者俗曰弱白髮、有服地黃而食萊菔變白髮者、天性有白髮者、清寧天皇生而白髮

之類是也、染白髮藥、

〔松屋筆記〕六十三髮を黒くする方